

園で昼食の前に子どもたちが歌っている英語の歌の歌詞を知りたいとのご要望がありましたので、「からたち(2014年5月号)」に載せたものを再掲させていただきます。

食事の前に子どもたちが歌っている歌をご紹介します。

Oh, the Lord is good to me,
And so I thank the Lord
For giving me the things I need
The sun, and the rain, and the apple seed.
The Lord is good to me.
Amen Amen Amen A...men

訳: (…正確な訳ではないかもしれませんが)
主(神さま)は、私に親切です。(良いことをして下さいます)
だから、私は主(神さま)に感謝します。
太陽、雨、そして、リンゴの種など、私が必要なものを与えて
くださるからです。
主(神さま)は、私に親切です。(良いことをして下さいます。)
アーメン (まことにその通りです)

数年前からこの歌を食前に歌うようになりましたが、保護者のみなさんも、子どもたちが歌っているのを聞いて、「英語の歌」ということはわかるけど、どんな意味で、何を歌っているかまでは、ご存じなかったのではないのでしょうか？

実は、私自身、この歌について、歌詞とメロディ以外、詳しいことはあまり知らなかったもので、少し調べてみました。

そもそも、この歌は私(基樹)が幼いころ、前園長である父(正昭)が教会の牧師として、長野県の諏訪に赴任していたときに、ルンド先生という外国人宣教師から教えて頂いた歌です。

正確な歌のタイトルはわかりませんが、『The Johnny Appleseed Song』とか『Johnny Appleseed Grace』などと呼ばれているようです。

ジョニー・アップルシードというのはニックネームで、本名はジョン・チャップマンという、アメリカ合衆国初期の伝説的な開拓者なんだそうです。西部の開拓地一帯を回り、聖書の教えを説きながらリンゴの種を植えて回った実在の人物とのことです。

ジョニー・アップルシードの夢は、リンゴの木をあちこちに植え、リンゴが実って空腹な人々がいなくなること。

ジョニー・アップルシードは、優しくて親切で性格の良い男の人、未開の地でもはだしで歩きまわって、リンゴの種を蒔いていた。

ジョニー・アップルシードは、誰とでも友だちになり、アメリカ先住民や開拓者だけでなく、動物たちからも好かれていた。

ジョニー・アップルシードは、コートの代わりに麻袋を着て、帽子の代わりに鍋をかぶっていた。料理するときにはその帽子がわりの鍋を使った。

ジョニー・アップルシードの愛読書は、聖書だった。

…などなど、いろんな言い伝えがあるそうです。

このジョニー・アップルシードのお話をディズニーが映画にし、その映画のなかで歌われていたのが、この歌なのですが、映画の中で歌われているものとは、少し歌詞が違ってたりもしています。(YOUTUBEなどの動画サイトで検索してみるとディズニーのアニメーションや、外国の子どもが歌っている様子などが結構出てきます。)

ぜひ、お子さんに教わりながら一緒に口ずさんでみてください。

